

学びの多様な学校（不登校特例校）視察から

1 ねらい

不登校特例校及び不登校対応に先進的な行政地を視察し、本町でここ数年で増加している不登校児童生徒の対応及び解消に向けた指導の参考とする。

2 期 日

令和5年9月20日（水）～22日（金）

3 訪問場所

福生市立福生第一中学校（東京都福生市牛浜163さくら会館2F）

学校法人国際学園星槎中学校（横浜市緑区霧が丘6丁目13番地）

大田区立御園中学校（東京都大田区池上3-27-6）

世田谷区立世田谷中学校（東京都世田谷区弦巻3-16-8教育センター2F）

八王子市立高尾山学園小学部・中学部（東京都八王子市館町1097-30）

大和市立引地台中学校分教室（大和市柳橋1-17-7柳橋小学校敷地内）

戸田市立教育センター（埼玉県戸田市上戸田1丁目19-14）

4 参加者

大槌町立大槌学園2名

大槌町立吉里吉里学園小学部、中学部 各1名

大槌町教育委員会 学務課 大槌型教育推進班長1名、（主任）指導主事2名、SSW1名

計 8名

学びの多様化学校（不登校特例校） 視察から

○学校法人国際学園星槎中学校（私立）

- ・ 在生徒数405名と大規模の学校
- ・ 生徒のほとんどが特性を持った生徒で、入学時に全生徒が知能検査を受け、それに基づいた「個別の指導計画」を作成されている。
- ・ ICTを効果的に活用し「ほめチャット」では、全ての生徒のよい面を全職員で共有している。生徒本人の自己肯定感の向上のほか、その内容を保護者に伝えることで学校との信頼関係づくりに生かしている。
- ・ 全国規模で事業展開しているため、他の教育機関や研究施設との関りも多くあり、生徒1人ひとりの情報をビッグデータ化し、教員の経験や勘だけでない客観的なエビデンスに基づいた支援を行っている。
- ・ 生徒たちはどの生徒も明るく元気に挨拶をし、授業中の突然の入室にも落ち着いた様子で対応していた。他者とのコミュニケーションを何よりも重要視し、教育活動全体で取り組んでいることが窺えた。
- ・ 先生方の声掛けはじめ、対応が「生徒に寄り添う」ことを大前提に行っていた。掲示物や配布物、課題のコメントの全てにルビがふられていた。
- ・ 学校外のトラブル（SNS等）は学校では受けないというスタンスであることを、入学時に徹底しているとのことだった。また海外研修など経済的に余裕がある家庭だからこそ受けられる支援もあるように感じられた。

学びの多様化学校（不登校特例校） 視察から

○大田区立御園中学校分教室 みらい学園中等部（公立）

- ・ 在生徒数24名
- ・ 教育課程は本校とは別だが通常の進路選択が可能（980時間で実施）
- ・ 学習は通常の進路選択に備え定期テストも実施
- ・ 各教科の評定もつける
- ・ 本校への復帰は目標としていないが、卒業後多様な進路選択ができるように授業をしっかりと行うことを学校の特色としている（学びに特化した学校）
- ・ キャリア教育を特に重要視している（社会性を身につけさせる）
- ・ 各教室には個人の机を配置せず大テーブルを使用している（対話による授業を重視）
- ・ 何らかの人間関係のトラブルに悩み、学校には行けないが学びの意欲は持っている生徒のための学校である。そのために入学のプレ段階として転入学支援教室が設定されている事で、自分に合った学校選択を可能とできていると感じた。
- ・ 生徒同士ではコミュニケーションがとれないため、教師が間に入ってコミュニケーションの手助けをしたり、職員室や教室をガラス張りにしたり、生徒が打ち解けやすい雰囲気づくりをしていた。
- ・ みらい学園は職員内の主任が運営の中心となっており、教育委員会の指導主事も経験しているため様々な方面に顔が利き利便を図ってもらいやすいとのこと。ただし、公立の教員だからこそ人事配置によって、その学校の様子が大きく変わりうることも想定される。

学びの多様化学校（不登校特例校） 視察から

○大和市立引地台中学校分教室（公立）「WING」

- ・在籍生徒数22名（定員30名）
- ・特例校として独立はしていない（あくまで分教室）
- ・分教室の場所は本校ではなく 近くの柳橋小学校の敷地に設置されている
- ・不登校支援を重視し個人の自主性を尊重
- ・不登校生徒の中でも学校へ登校するエネルギーが最も低い生徒を対象としている。「家から出て外（学校）へ足を向けること」
- ・学力を保証する場ではない（保護者の要望と合わないケースが多い）
- ・発達障害の支援学級ではない（しかし何らかの障害は持ち合わせていると思われる）
- ・制服や校則はない（始業は9時00分～17時00分 最低限のルールとして「かかとのある靴を履くこと」）
- ・学年の募集数はオンライン対応を見込んで10名（毎日登校してくる生徒は3～4名）
- ・年間授業時数は980時間 教員数は本校加配分の3名で技能教科は本校教員が授業を行う。本校の先生が来て授業を行う際も、本校で行っている授業の教材では通用しないことや、教師側が執拗にやらせようとしない事を本校の職員と共通理解することはかなり困難であるとのこと。
- ・分教室のため国・県の補助金はなし、運営設備費がない 本校施設は使用していない。
- ・個別の指導計画は作成していない。 個々の興味関心がある活動しか行わない。
- ・説明の中で、「教師が楽しんで活動しているところに生徒が自ら参加する なぜ自分が不登校になったかをつがやいている生徒の話を聞いていないふりをしながら、しっかりと記録し職員で共有する」という話から、意欲の持たせ方やカウンセリングマインドの持ち方にもかなりの工夫が必要である。
- ・教室の壁はほぼ全面ホワイトボードとなっており、学習の跡やイラスト、つがやき等様々な内容が残されていた。

福生市立福生第一中学校分教室 7組



【学べる点・活かしたい点】

- 近隣の自治体所管施設等のハードを有効活用した教育活動の実践
- ICT端末による授業映像配信における設定上の負担は、学級規模によって変化するものであるか精査し、継続実施可能な学級規模や児童生徒人数等を洗い出す必要あり

大田区立御園中学校分教室 みらい学園中等部



【学べる点・活かしたい点】

- すべての児童生徒の心理的安全性の確保や、他者や社会とのつながりを厚くし、卒業後の孤立を防ぐことにより、大いに寄与しうる、教職員と生徒とが積極的に触れ合う機会設定
- 区内全小中学校における校内専任担当者による一元的、組織的な不登校児童生徒への支援・対応（校務分掌上、区内小学校：「不登校対策推進担当」、中学校：「登校支援コーディネーター」を配置）

戸田市教育委員会



【学べる点・活かしたい点】

- 市の教育改革施策・事業における「多様性に応じた教育の推進（含む不登校対策）」の位置付けや注力度合の明確化

⇒ **大槌町(教委)が教育施策をもって今後目指す方向性、「多様な学びの機会の保障(含む不登校支援)」の位置付けや注力度合について、児童生徒や保護者、地域住民はもちろん、各学園教職員に向けて明示し、理解や納得を得た上で、協力を得られる土台を築く必要あり**

八王子市立高尾山学園



【学べる点・活かしたい点】

- 集団生活への適応や学習への繊細な配慮を要する子どもへ向けた教育的サービスを提供を十分検討した上で、すべての教育活動が実践されている点

⇒ 学園生活を円滑に送るための全児童生徒を対象としたユニバーサルな支援(一次支援)とともに、特別な配慮を要する子どもへの個別の支援(二次・三次支援)を意図した教育活動の実践